

【FdData 中間期末：中学歴史：鎌倉時代】

【武士の生活】

【問題】(2 学期中間)

次の各問いに答えなさい。

- (1) 武士の多くは館をどこに構えて生活していたか。正しくないものを次から1つ選びなさい。

〔公領 莊園 都〕

- (2) 武士は常に馬や弓矢の武芸によって心身をきたえていました。また武士らしい心構えも育ってきました。このことを「もののふの道」、または何の道というか答えなさい。

【解答】(1) 都 (2) 弓矢の道

【解説】

(1) 平安時代，土地をかいこん開墾したごうぞく豪族や有力な農民は，租税の負担をのがれるために

有力貴族や寺社に土地をきしん寄進してしょうえん莊園としてもらい，自分は形式上はしょうかん莊官として田畑を耕作した。また，かれらは，国司からこうりょう公領の耕作を請

【武士の生活】

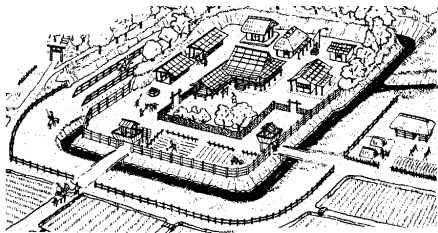
- ・堀と塀をめぐらせた館
- ・もののふの道(弓矢の道)
- 笠懸 流鏑馬 犬追物

け負い、一定額ねんぐの年貢をおさめるかわりに耕作権を認められていた。豪族や有力農民の中で武装した者は、武士とよばれるようになった。武士は荘園や公領ほり へいに堀と塀をめぐらせた館やかたを構えて生活し、土地の開発を進め、下人げにんや農民を使って農業を営んでいた。

(2) 武士は常に馬や弓矢の武芸ぶげいによって心身をきたえた。武芸の訓練方法としては、例えば、馬の上からの的にした笠を射るかさがけ笠懸、馬の上から連続した3つの的を射るやぶさめ流鏑馬、走る馬の上から犬を射るいぬおうもの犬追物などがある。「弓矢の道」、「もののふの道」はじとよばれる、名を重んじ、恥を知る態度などの武士らしい心構えが育っていった。

[問題](2 学期期末)

下の資料に描かれている絵の中で、武士の館らしい、敵の攻撃に備えたつくりの特徴を、簡単に説明しなさい。



[解答]館のまわりに堀や塀をめぐらせている。

[問題](2 学期中間)

武士は、つねに馬や弓矢の武芸によって心身をきたえて、武士らしい心がまえを持つように努力していた。これを「何の道」とよぶか。

[解答]もののふの道(弓矢の道)

[問題](2学期中間)

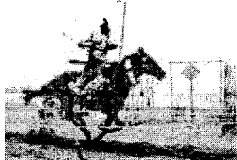
下の絵は日頃、御家人が行っていた武芸の訓練である。それぞれ何とよばれていたか。下の[]から選びなさい。

ア



馬の上からの的にした笠を射る

イ



馬の上から連続した3つの的を射る

ウ



走る馬の上から犬を射る

[犬追物 笠懸 流鏝馬]

[解答]ア 笠懸 イ 流鏝馬 ウ 犬追物

◆社会歴史の各ファイルへのリンク

<http://www.fdtype.com/dp/sr2/index.html>

◆FdData 中間期末の特徴(QandA 方式)

http://www.fdtype.com/dp/qanda_k.html

◆製品版(パソコン Word 文書：印刷・編集用)
の価格・購入方法

<http://www.fdtype.com/dp/seihin.html>

※ iPhone でリンク先が開かない場合は、
「iBooks」を開いてリンクをタップください。

【Fd 教材開発】 Mail : info2@fdtype.com